

# 学習指導要領のねらいとは何か？

## 到達目標

1. 学習指導要領はどのように作成されるのか。
2. 学習指導要領のねらいをどのように解釈するのか  
平成10～11年の改訂を元に考えてみる  
高校で必修教科として情報を新設した改訂
3. ゆとり教育には、どのような背景をもっているのか
4. 教科「情報」は、何故必要になったのか

# 1 教育課程実施状況調査

昭和56～58年度、平成5～7年

- ・覚えることは得意。
- ・計算の技能や文章の読み取りの力などもよく身に付いている。

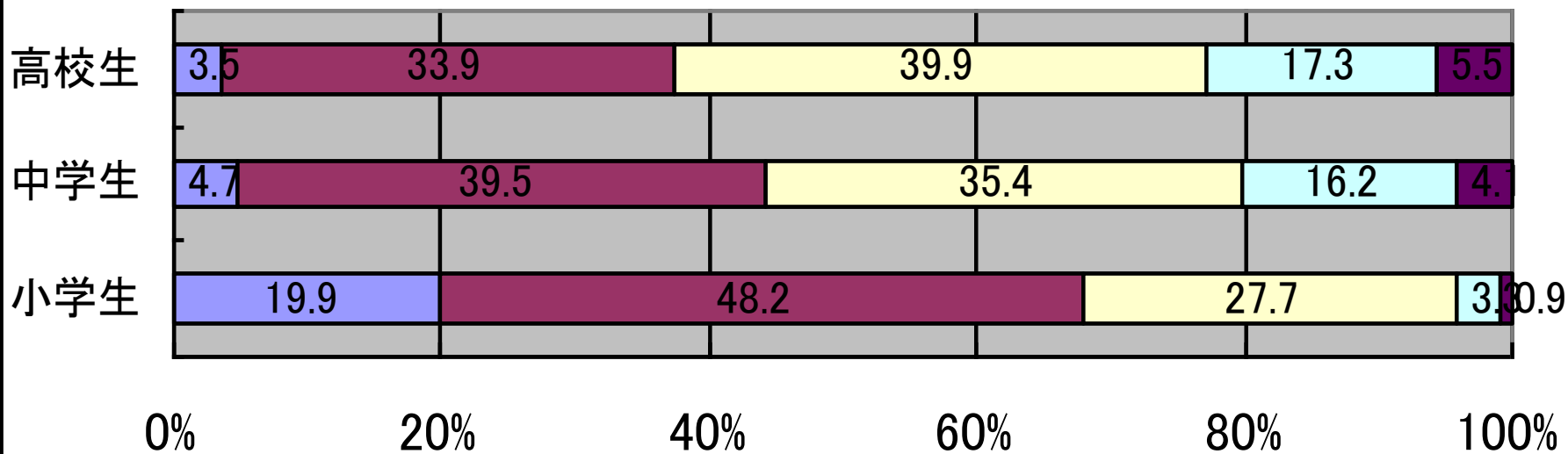
ところが

- ・覚えることは得意であるが、学習が受け身
- ・自ら調べ、判断し、自分なりの考えを持ち表現する力が不十分

# 1 教育課程実施状況調査

昭和56～58年度、平成5～7年

## 学校の授業の理解度



よく分かる

だいたい分かる

半分分かる

分からないことが多い

ほとんど分からない

## 2 国際数学・理科教育調査

国際教育到達度調査（IEA）

平成12年12月5日公表

成績は戦後一貫してトップクラスを維持しているが、しかし

数学・理科を好きと  
答えた生徒  
学校外での勉強時間

大きく  
下回る

# ○ 国際数学・理科教育調査

## 国際教育到達度調査（IEA）

「子どもの現状」



- 基礎・基本を徹底し、自ら学び考える力を育てることが必要
- 子ども一人一人に応じたきめ細かな教育が必要

# OECD 生徒の学習到達度調査

## 2000年調査国際結果

平成13年12月4日公表

読解力 8位      数学的応用力 1位  
科学的応用力 2位

知識面    おおむね良好

勉強時間    最低

学ぶ意欲  
知的好奇心  
低下

### 3 学力とは

児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の  
在り方について(答申)  
平成12年12月4日

知識・技能は重要であるが、単なる  
知識の量のみではなく、学ぶ意欲、  
思考力、表現力まで含めた力

**学力の質の向上**

## 4 学習指導要領の基本的なねらい

- 授業時数の縮減と教育内容の厳選
- 個に応じた指導の充実
- 体験的、問題解決的な学習活動の重視
- 総合的な学習の時間の創設
- 選択学習の幅の拡大



# 5 学習指導要領の全体構造

小学校

中学校

高等学校

各教科

選択教科

選択科目

必修教科

選択幅を拡大し、生徒に応じて能力を伸長

厳選された基礎・基本を確実に習得

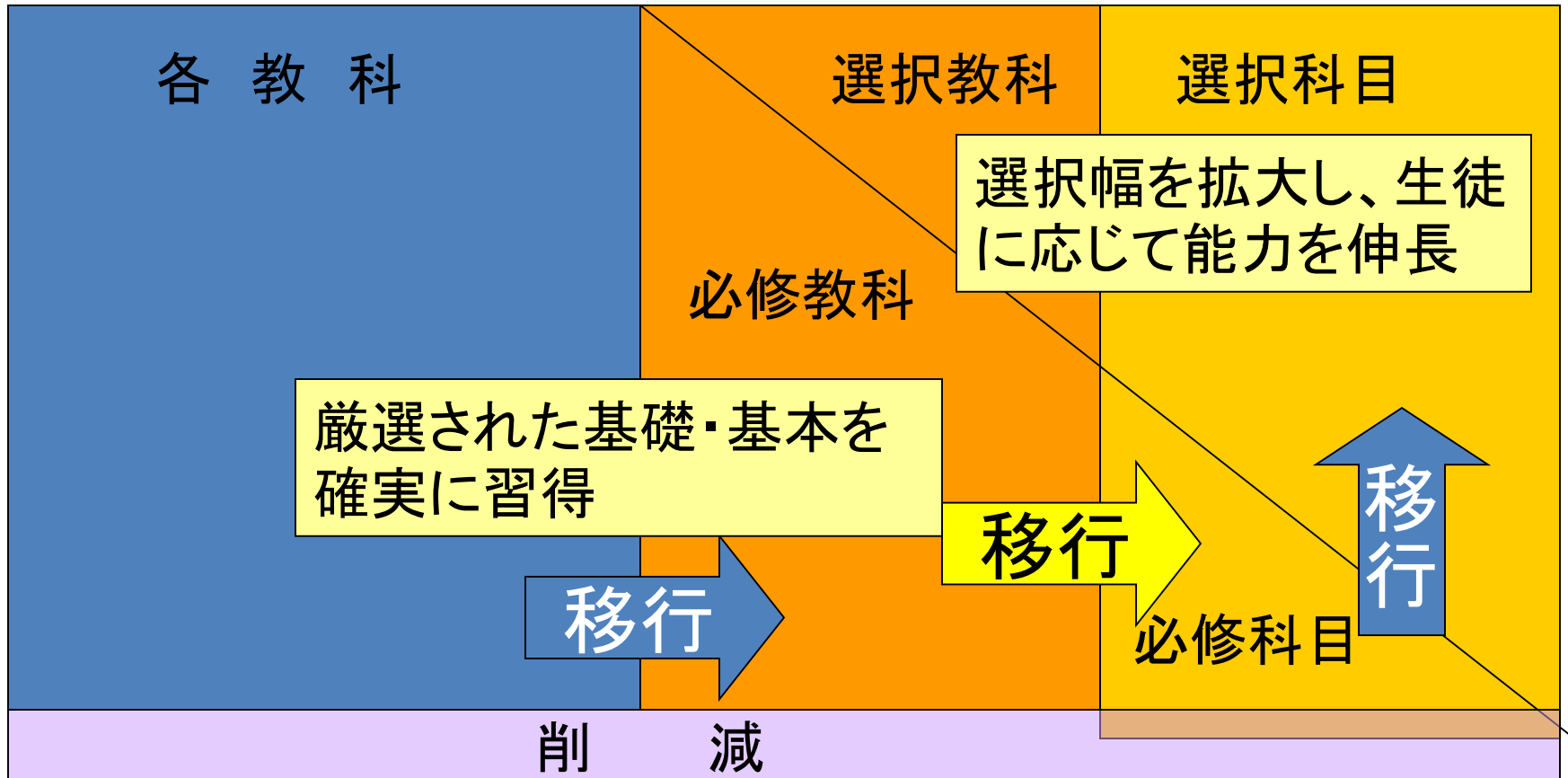
移行

移行

移行

必修科目

削減



## 6 教育内容の厳選

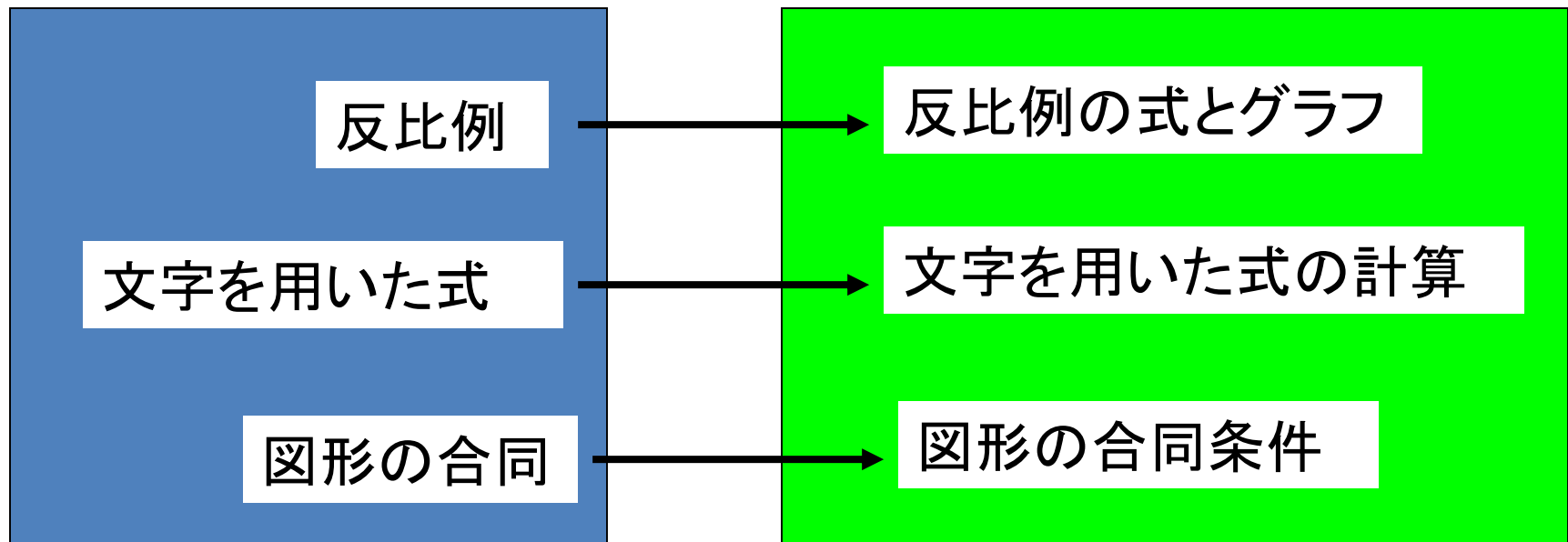
基礎・基本を確実に定着させるため教育内容を厳選

例 算数・数学

小学校

移行

中学校



# 6 教育内容の厳選

基礎・基本を確実に定着させるため教育内容を厳選

例 算数・数学

中学校

移行

高等学校

資料の整理

標本調査

一元一次不等式

二次方程式の解の公式

必修科目

身近な統計

方程式と不等式

選択科目

教育内容  
の水準は  
変わらない

# 教育内容の厳選

時間的なゆとり

精神的なゆとり

学校

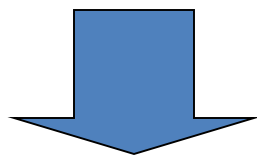
子ども

- ①理解や習熟の程度に応じた指導・個別指導等
- ②体験的・問題解決的な学習

- ①基礎・基本の確実な定着
- ②思考力、判断力、表現力などの育成

## 7 選択学習の幅の拡大

生徒の興味・関心、進路希望等に応じた能力の伸長を一層実現

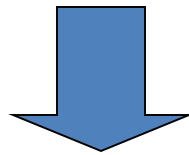


- 必修科目の最低合計単位数を縮減
- 各学校で独自に学校設定教科・科目の設定可能
- 大学で学んだ成果を高等学校の単位として認める

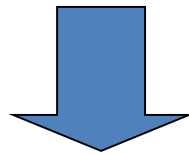
# 8 最低基準性の一層の明確化

## 個に応じた指導の充実

教育内容の厳選・選択幅の拡大



学習指導要領の最低基準性が一層明確に

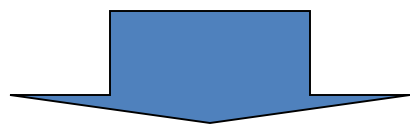


発展的な学習、補充的な学習など、  
個に応じた指導の充実

Q 高等学校学習指導要領の改訂の基本方針は何か。

基本的なねらい

- ・完全学校週5日制
- ・[ゆとり]の中で「特色ある教育」を展開
- ・[生きる力]を培う



四つの方針

- 豊かな人間性や社会性，国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。

- 自ら学び，自ら考える力を育成すること。

- ゆとりある教育活動を展開する中で，基礎・基本の確実な定着を図り，個性を生かす教育を充実すること。

- 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育，特色ある学校づくりを進めること。

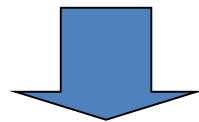


Q 「自ら学び、自ら考える力を育成すること」とは？

- **総合的な学習の時間**
- **各教科・科目において、体験的、問題解決的な学習の充実**
- **思考力、判断力、表現力の育成の重視**

# Q 教育課程の編成

- 地域や学校の実態に即した教育目標の設定
- 生徒の発達段階や特性等を考慮して、指導内容を選択して組織



**[生きる力]を育成**

Q 「体験的な学習の指導」は  
どのように改訂されたか。

勤労や奉仕にかかわる体験的な  
学習の指導

就業やボランティアにかかわる体  
験的な学習の指導

# Q 卒業までに履修させる単位数

1 単位 = 50分 × 35週

1 単位時間 = 適切に定める

卒業までに履修させる単位数

80単位以上 → 74単位以上

## Q 教科・科目の構成

**普通教科 = 教科「情報」を新設して、  
10教科で構成される。**

**専門教科 = 教科「情報」「福祉」を  
新設して13教科で構成される。**

**普通教科：9教科 → 10教科**

**専門教科：12教科 → 13教科**

## Q 標準単位とは

標準単位によって授業を行えば、内容は無理なく指導できる

### 標準単位より多い

- ・合理的とみられる範囲内で適切に

### 標準単位より少ない

- ・必修科目については原則認められない
- ・特に必要がある場合

# Q 学校設定科目、学校設定教科

**地域、学校及び生徒の実態、学科の  
特色等に応じ、各学校が創意工夫**

**学校設定科目、学校設定教科を  
各学校が定めることができる。**

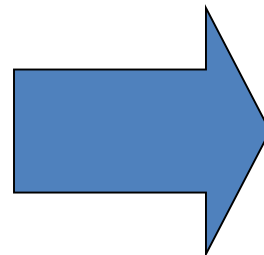
**修得単位数＝20単位を卒業までに必要  
な単位数に含めることができる**

# Q 必修教科・科目の履修

## 選択必修、2単位科目

38単位(普通科)

35単位(専門学科等)



31単位

専門教科 30単位以上→25単位以上



Q 総合学科における各教科・  
科 目の履修について

## 原則履修科目

産業社会と人間  
情報に関する基礎的科目  
課題研究

産業社会と人間

# Q 「総合的な学習の時間」の位置づけ

## 教育課程上 必置

105時間～210単位時間を標準

- ・授業時数に組み入れることが必要
- ・特定の学期又は期間の実施可能

# Q 「総合的な学習の時間」の趣旨とねらい

**趣旨:** 地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う。

- ねらい**
- ① 問題解決能力＝[生きる力]を育てる
  - ② 学び方や考え方を身に付ける
  - ③ 自己の在り方生き方について考えることができる

# Q 「総合的な学習の時間」の 学習活動の例示

**ア 横断的・総合的な課題についての  
学習活動**

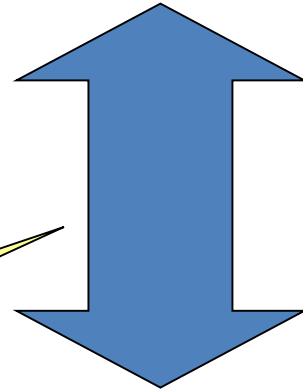
**イ 知識や技能の深化、総合化を図る  
学習活動**

**ウ 自己の在り方生き方や進路について  
考察する学習活動**

Q 専門学科における「総合的な  
学習の時間」

総合的な学習の時間

同様の成果が  
期待できる場合



課題研究

「自己の在り方  
生き方」を補う学  
習が必要

# Q 週当たりの授業時数 H 1 4

**全日制**

**標準授業時数**

**週32単位時間**

**週30単位時間**

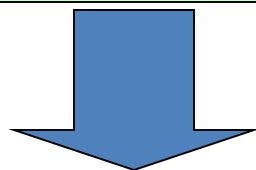
# 9 学習指導要領のねらいを 実現するための評価の充実

①児童生徒の一人一人の学習状況を適切に評価

絶対評価を一層重視

評価規準、評価方法を研究開発

指導要録の改善



各学校において

評価の客観性を高めるため、評価規準の作成に向けて研究を！！！！

# 9 学習指導要領のねらいを 実現するための評価の充実

②学習指導要領の目標の全国的な実現状況、教育課程の実施状況を適切に評価

・全国的な学力調査の実施

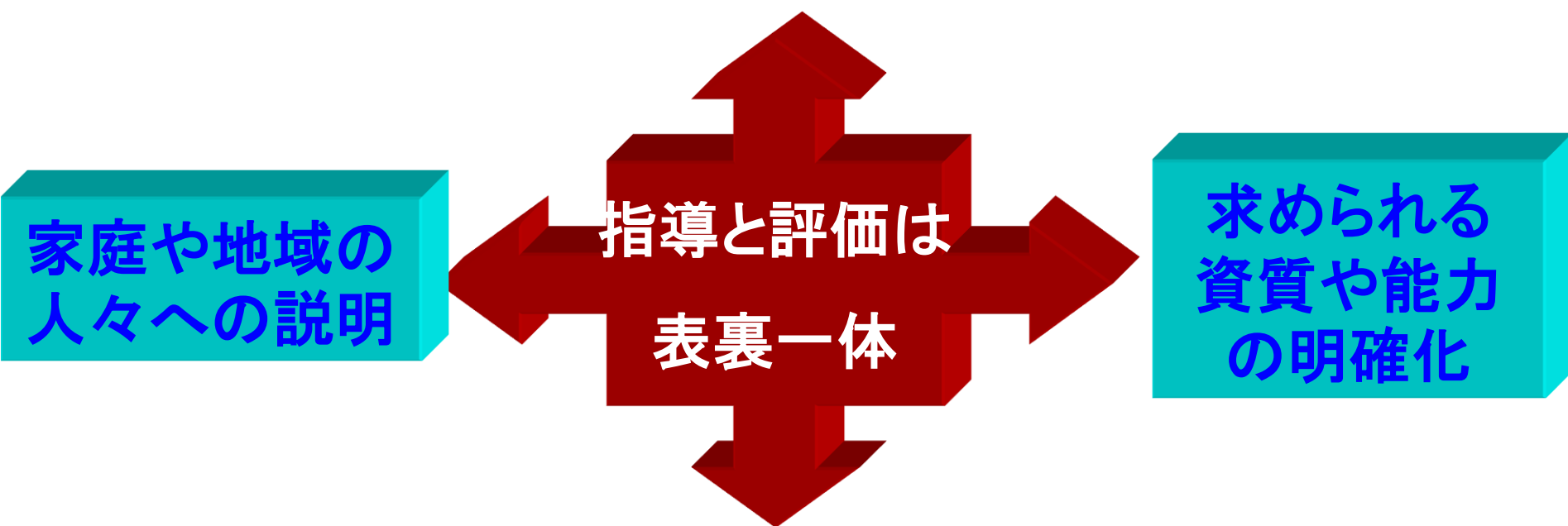
（高等学校は、平成14・15年度に学力調査）

・各学校において、教育課程の実施状況等から見た  
自己点検・自己評価が必要



# Q 評価の機能と役割

## ① 児童生徒のための評価

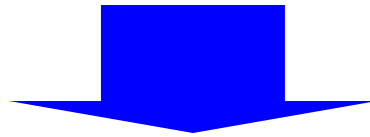


## ② 学校や教員が進める教育自体の評価

# Q 学力についての考え方とその 評価の在り方のポイント

**知識の量:「読・書・算」**

**生きる力:理解力、思考力、  
問題解決能力等**



**学習状況の評価**

# Q 求められる「評価」

## 児童生徒の学習の到達度を適切に評価

- ① いわゆる絶対評価の重視
- ② 観点別学習状況の評価を基本  
「関心・意欲・態度」「思考・判断」  
「技能・表現」「知識・理解」
- ③ 個人内評価の工夫

# 10 指導要録の改善

- 1 評価は4つの観点を十分踏まえる
- 2 「総合的な学習の時間」は、観点を定め文章による評価
- 3 生徒の成長の状況を総合的にとらえるよう総合所見を追加

# Q 指導要録の取扱いとその改善

## ① 指導要録改善の基本的な方針

- ・国の示す参考様式はできる限り大枠にとどめる
- ・「総合的な学習の時間」の欄を新設

## ② 各教科・科目等の学習の記録の評定

- ・四つの観点による評価を十分に踏まえる

# Q 指導要録の取扱いとその改善

## ③ 「総合的な学習の時間」の記録

- ・「学習活動」と「評価」から構成
- ・「評価」は文章で記述する

## ④ 学校設定科目の学習の記録

- ・評定及び修得単位数を記載
- ・数値的な評価になじまない科目は所見等を記述

# 11 全国的な学力調査の実施

## 現行学習指導要領の下での学力調査 (教育課程実施状況調査)

高等学校・・・平成14年11月12日実施予定  
(全日制課程 第3学年)

14年度 96,000人

調査教科

平成14年度：国語、数学、理科、外国語

平成15年度：地理歴史、公民

# 特別活動



# 1 特別活動の改善の要点

- 社会性の一層の育成
- ボランティア活動や就業体験の充実
- ガイダンスの機能の充実
- 各学校の創意工夫と開かれた教育活動の推進

## 2 ホームルーム活動の授業時数

- 年間35単位時間以上
- 年間35週行うことを標準とし、  
毎週実施
- 定時制課程では、特別な事情がある場合には、一部を減ずることも可

### **3 生徒会活動・学校行事**

**生徒会活動及び、学校行事については、学校の実態に応じて、それぞれ適切な授業時数をあてるものとする**

## 4 特別活動のねらい

- 生徒の全人的な成長
- 自主的・実践的な態度の確立
- 人間関係形成能力の育成
- 学校生活への適応とうるおい

## 5 ガイダンス機能の充実

- 学校不適應の増加
- 学校や生徒の選択の幅の拡大
- 大学改革の進展等 → 進路の多様化
- 無業者の増加、就職者の早期離職

背景

## 5 ガイダンス機能の充実

**留意点**

- ガイダンスの場、機会の充実
- 指導・援助の在り方の工夫・改善

## 6 特別活動の評価

- 個々の生徒の活動状況とその成長・発達の評価
- 生徒の集団の状況とその発達の評価
- 指導計画等(指導内容・方法・指導体制等)の評価

## 7 活動状況等の評価

- 生徒のよい点や進歩の状況
- 生徒の努力や意欲
- 多面的、総合的な評価
- 自己評価、相互評価 など